



Violyre ヴィオリラ

SH-30NW/SH-30NR

取扱説明書

このたびはヤマハ ヴィオリラをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。
ヴィオリラの優れた性能を充分に発揮させるとともに、末永くご愛用いただくために、
ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みになってください。
次項「安全へのこころがけ」には、思わぬけがや、事故を未然に防ぐための注意が書かれています。
内容をご理解の上、この製品を正しく安全にお使いいただきますようお願いいたします。



注意

安全へのこころがけ

思わぬけがをしないために

ヤマハ ヴィオリラ を安全にお使いいただくための注意

- 楽器の演奏以外には使用しないでください。
振り回すなど乱暴な取扱いは危険です。
- 火気には絶対に近づけないでください。
火災の原因になります。
- 本機を分解・修理・改造しないでください。
故障などの原因になります。
- 電源アダプターは必ず交流100Vに接続してください。
エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。
- 使用中に音が出なくなったり異常ににおいや煙が出た場合は、すぐに電源アダプターのプラグをコンセントから抜いてください。
(電池を使用している場合は、電池を本体から抜いてください。)
感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店に点検をご依頼ください。
- 弦の交換や調弦時、楽器に顔を近づけすぎないようにしてください。
不意に弦が切れて目を傷つけるなど、思わぬ事故の原因になることがあります。
- 弦巻きからはみ出した弦の先端は短く切ってください。
弦の先端は鋭利なため、けがの原因になることがあります。
- 演奏は適切な音量で行ってください。
特に深夜の演奏は、他人の迷惑にならないよう、充分注意してください。
- 調子笛・ピック・弦などの付属品は、小さなお子様の近くには絶対に置かないでください。
飲み込むと大変危険です。
- ヴィオリラにアンプを接続して使用する場合、雨中や湿度の高い場所では使用しないでください。
感電の原因になります。
- ヴィオリラにアンプを接続して使用する場合、コードの脱着はアンプの電源を切り、ボリュームを必ず0(最小)にしてから行ってください。
アンプの寿命を短くしたり、スピーカーを損傷する原因になります。
- 電源アダプターのプラグを抜くときは、電源アダプターコードを持たずに、必ず電源アダプターのプラグを持って引き抜いてください。
電源アダプターコードが破損して、感電や火災が発生するおそれがあります。
- 濡れた手で電源アダプターのプラグを抜き差ししないでください。
感電のおそれがあります。手入れをするときは、必ず電源アダプターのプラグをコンセントから抜いてから行ってください。
- 夏期の自動車の車内は非常に暑くなります。楽器を車内に放置しないでください。
本体が変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。
- 楽器のお手入れは、柔らかい布で乾拭きしてください。その際、弦の先端部分だけがをしなように注意してください。

ヤマハ ヴィオリラ の特長

- 共鳴の少ないソリッドボディ(共鳴箱のない胴体)で、通常の演奏音は小さく、ヘッドフォンを使用することで、周囲に気兼ねなく好きな音量で演奏を楽しむことができます。またアンプを接続して、大きな音で演奏することもできます。
- ボディ形状の工夫やヤマハのエレクトロニクス技術により、弓を使った奏法を可能にしました。バイオリンやチェロに似た音色で演奏することができます。
- 新開発の駒(マルチブリッジ)の採用により、太さの異なる弦に張り替えて、音域の違う楽器として使用することができます。
- リバーブ(音響)機能やトーンコントロール(音質調整)を装備し、豊かで奥行きのある音色や、曲想に合わせた音作りを楽しむことができます。
- AUX IN端子に“伴奏くん”やCD、カセットテープを接続して、その伴奏に合わせて演奏することができます。
- 音階ボタンの配列や材質などを徹底的に研究し、よりスムーズな運指を可能にしました。



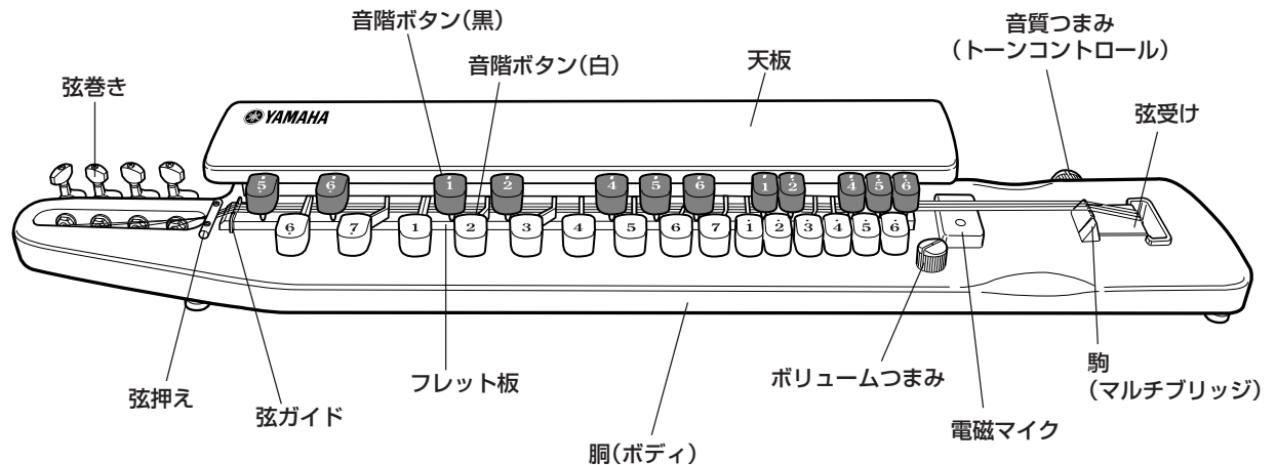
これは日本電子機械工業会
「音のエチケット」キャンペーン
のシンボルマークです。

音楽を楽しむエチケット

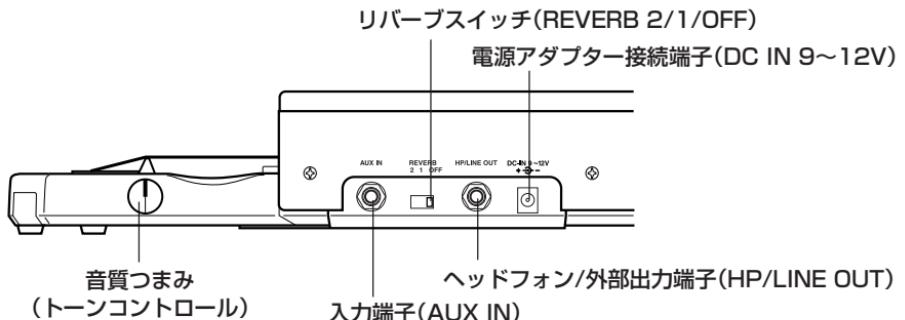
楽しい音楽も時と場所によってはたいへん気になるものです。隣近所への配慮を充分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わずで迷惑をかけてしまうことがあります。適度な音量を心がけ、窓を閉めたりヘッドフォンをご使用になるのもひとつの方法です。ヘッドフォンをご使用になる場合には、耳をあまり刺激しないよう適度な音量でお楽しみください。

各部の名称

■ 本体(正面)

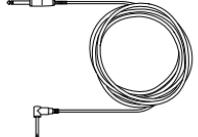
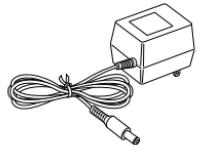


■ 本体(背面)



■ 付属品

- バイオリン弓(3/4サイズ相当)
 - 松脂
 - 予備弦(細線、細巻線、太巻線、各1)
 - ピック(ソフト1枚、
ミディアム1枚)
 - 調子笛
- ヘッドフォン
 - 電源アダプター
 - ホーンコード
 - 9V乾電池
(S-006P:6F22)
 - ハードケース
 - 取扱説明書(本書)



電源の準備

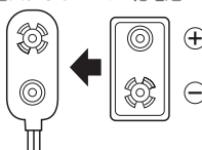
ヴィオリラは、電源として乾電池と家庭用コンセントの両方を使うことができます。

電源の準備をする前に、本体正面右側にあるボリュームつまみを左に回してOFFにしてください。

■ 乾電池を使うときは

1. 本体を裏返し、ツメを押し上げて電池ブタをはずします。

2. 付属の9V乾電池のビニールをはがし、電池スナップを電池の端子に取り付けます。
右図を参考に、端子の $+$ $-$ を合わせて、
しっかりとめあわせてください。

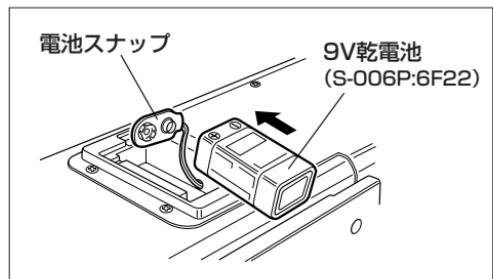
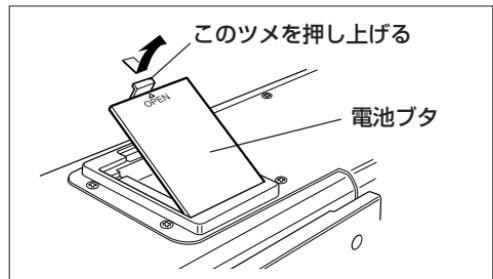


3. 電池ブタを取り付けて完了です。

※ 電池が少なくなると、音が歪んだり、リバーブがかからなくなったり、ノイズが発生したりします。そのような場合は、市販の9V乾電池 (S-006P:6F22)をお買い求めの上、交換してください。

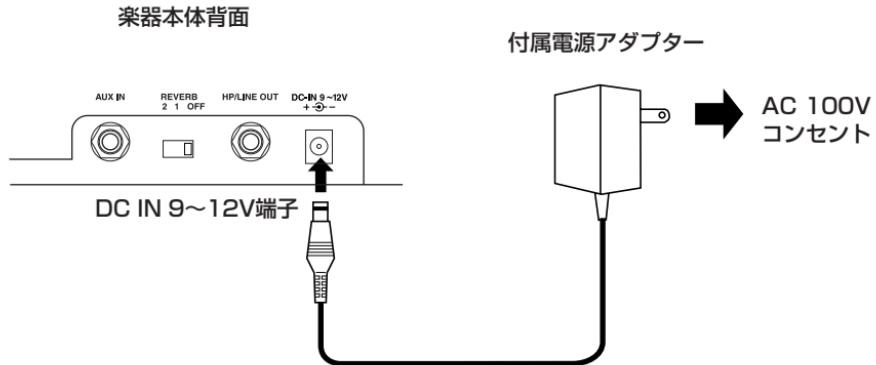
※ 長期間使用しない場合は、乾電池を本体から抜いておいてください。
乾電池が消耗し、液漏れにより本体を損傷するおそれがあります。

4. 通常の練習では電源アダプターをお使いになると経済的です。演奏会のステージなどでAC電源の確保が難しい場合は、電池をお使いいただくと便利です。



■ 家庭用コンセントから電源を取るときは

1. 図のように、付属の電源アダプターの端子を本体背面のDC IN 9~12V端子に、確実に差し込みます。
2. 電源アダプターの電源プラグを家庭用(AC100V)コンセントに差し込みます。



- ※ 乾電池が入っている状態で電源アダプターを接続すると、電源は自動的にアダプター側から供給されるようになります。
- ※ 電源アダプターは、必ず付属のものもしくは別売のヤマハ電源アダプターPA-3Cをお使いください。
他の電源アダプターの使用は、故障・発火などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねる場合がございますので、充分にご注意ください。

接続と使い方

■ ヘッドフォン/アンプの接続

● ヘッドフォンの接続

1. 本体正面右のボリュームつまみを“OFF”(左いっぱいに回す)にしてから、ヴィオリラ背面のHP/LINE OUT端子にヘッドフォンのプラグを差し込みます。

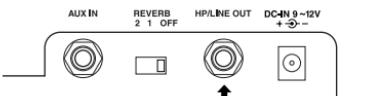
※ ボリュームつまみを上げた状態では、絶対にヘッドフォンを抜き差ししないでください。ヘッドフォンの故障の原因となります。また、ヘッドフォンを耳に装着した状態で抜き差しすると、聴覚障害の原因となります。

2. ピックや弓で弾きながらボリュームつまみを右に少しずつ回して、音量を調節します。
3. 演奏をやめる場合は、ボリュームつまみを左いっぱいに回して“OFF”にしてから、ヘッドフォンのプラグを抜いてください。

※ ヘッドフォンを接続した状態でボリュームつまみが“OFF”以外になっていると、ヴィオリラの電源が入ったままになり電池や電気を消耗してしまいます。

※ 大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

ボリュームつまみを“OFF”にする



ヘッドフォン



片づけるときは“OFF”にする

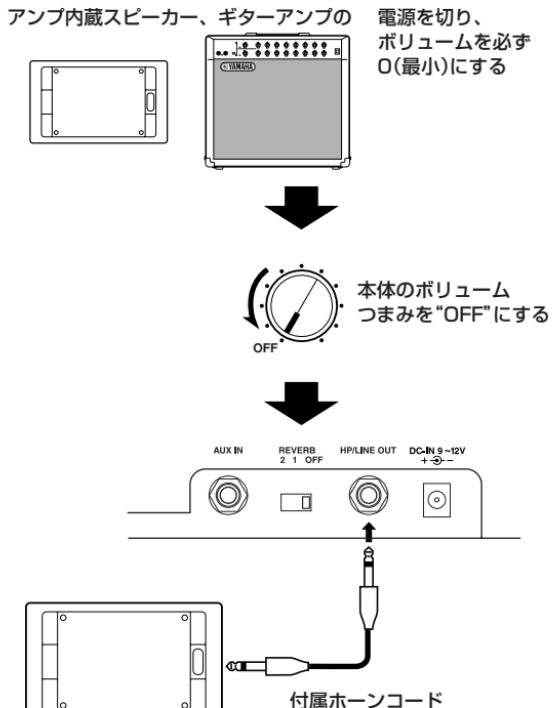
ボリュームつまみを少しずつ右へ回して音量を調整する



● アンプとの接続

1. アンプ内蔵スピーカーやギターアンプなどの電源を切り、ボリュームを必ず0(最小)にします。
2. 本体正面右のボリュームつまみを“OFF”(左いっぱいに回す)にしてから、本体背面のHP/LINE OUT端子とアンプの入力端子とを、付属のホーンコードで接続します。
※ ボリュームつまみを上げた状態では、絶対にホーンコードを抜き差ししないでください。
3. アンプの電源を入れ、本体のボリュームつまみを右に回して電源を入れます(力チッとクリック感があります)。
4. ピックや弓で弾きながら本体のボリュームつまみとアンプのボリュームつまみを調節して、音量を調整します。
5. 演奏をやめる場合は、アンプのボリュームつまみと本体のボリュームつまみを左いっぱい(“OFF”)にしてから、ホーンコードを抜いてください。
※ ホーンコードを接続した状態でボリュームつまみが“OFF”以外になっていると、ヴィオリラの電源が入ったままになり電池や電気を消耗してしまいます。

- ・電子チューナーをHP/LINE OUT端子に接続すれば、メーターなどを使って簡単に調弦することができます。
- ・HP/LINE OUT端子にカセットレコーダーなどを接続して、演奏音を録音することもできます。

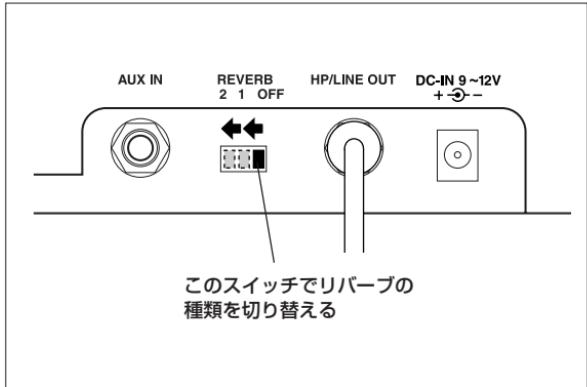


■ リバーブ(残響効果)をかけるには

リバーブ効果とは？

音がよく響く場所(お風呂場など)で演奏しているような残響(リバーブ)を、電気的に加える効果です。本体背面のリバーブスイッチの切り替えで、2種類の効き方を選ぶことができます。

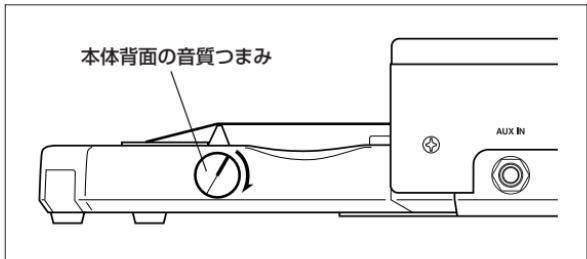
- ・スイッチ位置=1 演奏ホールで演奏しているような残響が得られます。
- ・スイッチ位置=2 スイッチ位置1よりも広い演奏ホールで演奏しているような、長い残響が得られます。
- ・スイッチ位置=OFF 残響効果はかかりません。



■ 音質を変えるには

本体背面の音質つまみ(トーンコントロール)を回すと、音質を調節することができます。

右図のようにつまみを右に回すと高音が強調され、明るくはっきりとした音色になります。逆につまみを左に回すと低音が強調され、やわらかな音色になります。

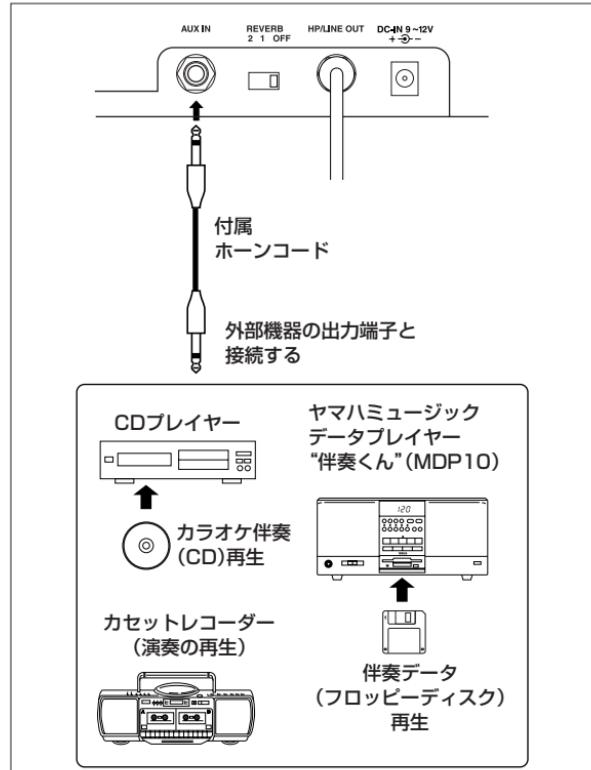


■ 伴奏くんやCD、カセットの音に合わせて演奏するには.....

本体背面のAUX IN端子は、ヤマハミュージックデータプレイヤー“伴奏くん”やCDプレイヤー、カセットトレコーダーなどの外部機器からの信号を入力する端子です。“伴奏くん”やCD、カセットテープなどの演奏(音)に合わせて演奏することができます。

● 外部機器との接続

- 接続する外部機器の電源を切り、ボリュームを必ず0(最小)にします。
- 本体正面右のボリュームつまみを“OFF”(左いっぱいに回す)にしてから、本体背面のAUX IN端子と外部機器の出力端子(OUTPUT, LINE OUTなど)とを、付属のホーンコードで接続します。
※ ボリュームつまみを上げた状態では、絶対にホーンコードを抜き差ししないでください。
- 外部機器の電源を入れ、CDやカセットを再生します。
外部機器の出力ボリュームで音量を調整します。ヴィオリラにアンプを接続している場合はアンプのボリュームつまみも調節します。
- 外部機器の演奏に合わせて演奏してみましょう。



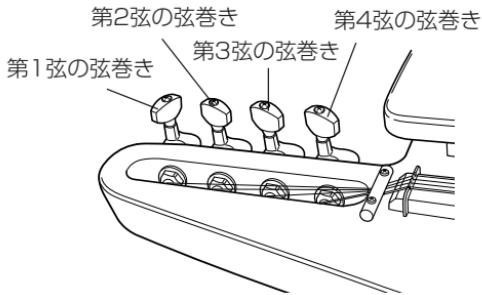
調 弦

- 演奏前に付属の調子笛やチューナーを使って調弦します。調子笛を吹くとソ()、g)の音が鳴ります。音階ボタンを押さえない状態で調弦します。
- チューナーを使って調弦する場合は、それぞれお使いになるチューナーの取扱説明書に従って行ってください。

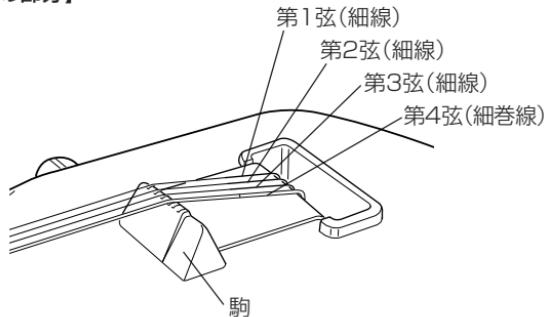
■ 調弦の手順

- 1 付属の調子笛を吹いて「ソ」の音を出してみましょう。
- 2 調子笛を吹きながら第1弦をピックではじき、調子笛と第1弦の音が合うように弦巻きで調節します。弦巻きは、右に回す(時計回り)と音程が上がり、左に回すと音程が下がります。

【弦巻きの部分】



【駒の部分】



- 3** 第2弦、第3弦をピックではじき、第1弦の音と同じになるように弦巻きで調節します。
この場合は調子笛は使わず、第1弦の音と比較しながら、第2弦、第3弦を合わせましょう。
- 4** 第4弦をピックではじき、第1～3弦より1オクターブ(8度)低くなるように弦巻きで調節します。

調弦のポイント

調弦の際は、徐々に音程を上げていって、目的の音に合わせます。高い音程から下げていって目的の音にすると、演奏したときに音程が狂い(下がり)やすくなります。
目的の音程よりも高くなってしまった場合は、一度音程を下げてから、あらためて音程を上げていって目的の音に合わせましょう。

お願い

- 弦を張つておくと、弦がわずかに伸びて音程が低くなります。ヤマハヴィオリラは調弦を完了した状態で出荷しておりますが、お買い上げ時には、音程を確認して再度調弦してください。
- 弦は消耗品です。錆びたり、伸びたり、切れかかると、音程が狂ったり、音色が悪くなったり、音量が落ちます。消耗した場合は、早めにお取り替えください。
替え弦は、ヤマハ大正琴弦と共通です。種類または、第何弦かをご指定の上お買い求めください。

■ 弦を張り替えて別な音域(音色)にする

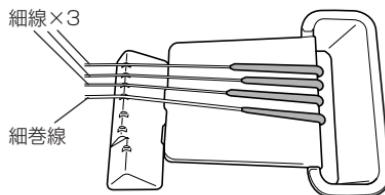
ヴィオリラには、新開発の駒(マルチブリッジ)が装着されています。

太さの異なる弦に張り替えることで、一台で音域や音色の違う楽器として使用することができます。

曲想や編成にあわせて弦の張り方を工夫して色々なアンサンブルを楽しんでください。

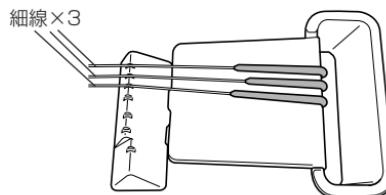
※工場出荷時はソプラノ(細線3本+細巻線1本)になっています。

● ソプラノ(細線3本+細巻線1本)



出荷時はこの状態になっています。
オクターブの音が重なった、大正琴のような音色です。

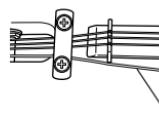
● ハイ・ソプラノ(細線3本)



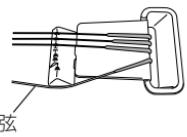
ソプラノから、第4弦(細巻線)を外した
細線だけの状態です。
トレモロ奏法をすると、マンドリンのよ
うな高く澄んだ音色になります。

簡易的にハイ・ソプラノにする

弦抑え側



ブリッジ側

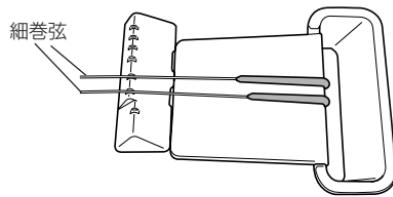


ソプラノの第4弦を外さずに簡易的にハイ・ソプラノにする方法です。

第4弦をゆるめてフレット板から手前にずらし、あらためて動かないように締めると簡単に変更することができます。

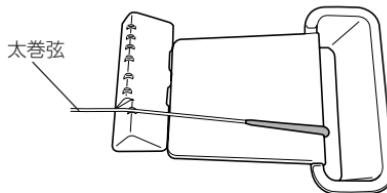
演奏会などでこの方法で変更する場合は、トラブルを防ぐためにずらした第4弦をボディにテープ止めをすると安心です。

● アルト(細巻線2本)



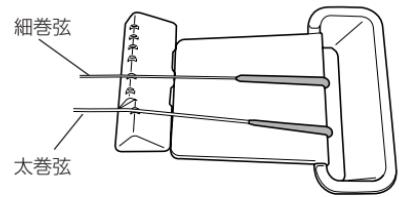
上図のように駒を奥に移動し、第2弦と第3弦の位置(弦巻き・弦受けとも)に細巻線を張ります。
細線の高い音が混じらない、柔らかな音色です。

● テナー(太巻線1本)



上図のように駒を奥に移動し、第4弦の位置(弦巻き・弦受けとも)に太巻線を張ります。
アルトよりさらに1オクターブ低い音。
弓奏でチロに似た太い音色が楽しめます。

● アルト/テナー (細巻線・太巻線各1本)



細巻線(第2弦の位置)と太巻線(第4弦の位置)を各1本張ります。
分弦奏法(1本の弦だけ弾く)にすると、
太巻線の最低音から細巻線の最高音まで、広い音域で演奏できます。

ヴィオリラの演奏のしかた

■ ピックによる演奏

● ピックの持ち方

人差指と中指の上にピックをのせ(図1)、親指をその上に軽くあてます(図2)。

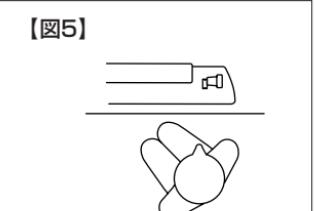
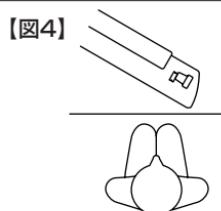
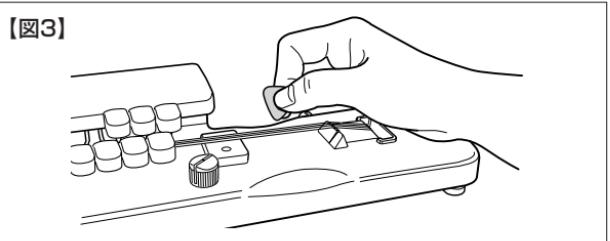
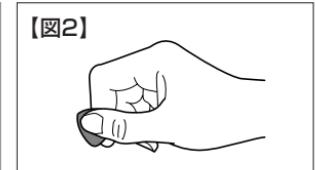
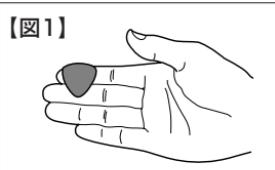
● 右手の位置

(図3)のような位置に右手を軽くのせます。

● 楽器の位置と姿勢

体の中心に⑤のボタンがくる位置に置き、右腕とヴィオリラの線が平行になるように(図4)か(図5)の形で演奏します。

- ・ピックは付属(ソフト、ミディアム)の他に、ギター用のものなどもお使いいただけます。ピックの形や材質によって、音色や弾き心地が変わりますので、曲想やお好みに合わせて工夫してみてください。
- また、ピックを使わずに指で弾く奏法もあります。
- ・弓奏後は、弦に付いた松脂を乾いた布で拭き取っておきましょう。弦に松脂が付着していると、ピックや指で弾いた際に弾きにくかったり音の輪郭がぼやけたりします。



■ 弓による演奏

バイオリンやチェロなどの「弓で弦を擦って演奏する」楽器(擦弦楽器といいます)の魅力ある音色は多くの人達の憧れです。しかし、それらの楽器のほとんどは、音程を決める仕組み(フレットなど)を持たないため、習得のためには根気強い練習の積み重ねが必要だといわれています。

ヴィオリラは、音程を決めるフレットを持つギターなどの構造と、ヤマハならではのエレクトロニクス技術による音作りのノウハウを合体して、ピック、指、弓のいずれを使った演奏も可能にした、新しい発想の楽器です。

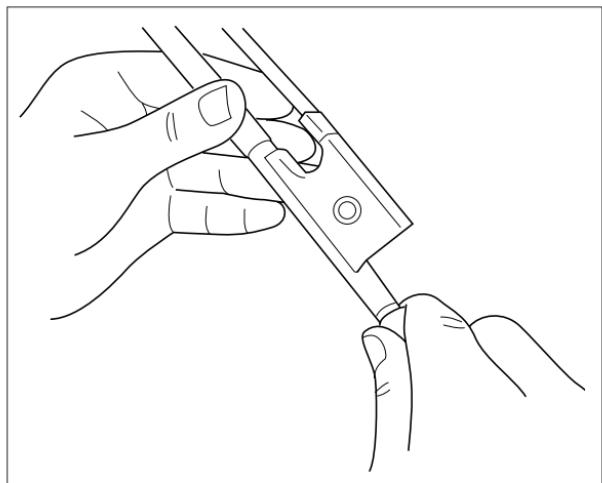
以下のポイントをもとに練習を進めていただくことで、バイオリンやチェロに似た擦弦音を手軽に楽しむことができます。

● 演奏の前に...(1)弓の張り方

右図のように、弓の根元のネジを右に回して弓を張ります。弓の中央部分と弓毛との距離が6mm～8mm程度を目安にしてください。

● 演奏の前に...(2)弓のゆるめ方

演奏が済んだら、弓は必ずゆるめてください。
(弓の中央部分と弓毛が軽くふれる程度)



● 演奏の前に...(3)松脂のつけ方と弓の張り方

左手に松脂を持ち、平均に弓毛に擦りつけます。

一方向だけ擦って溝が掘れないようにしましょう。

※ あまり速く擦って摩擦熱が出ないように、気をつけてください。

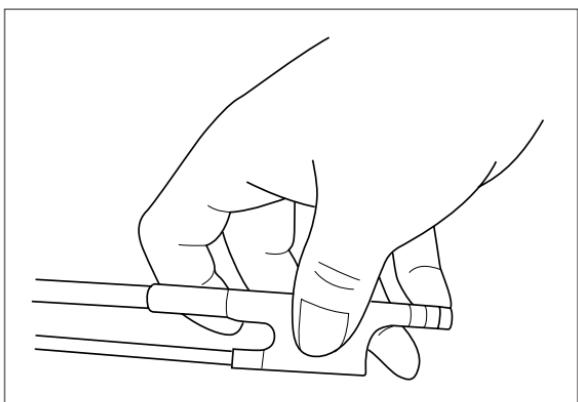
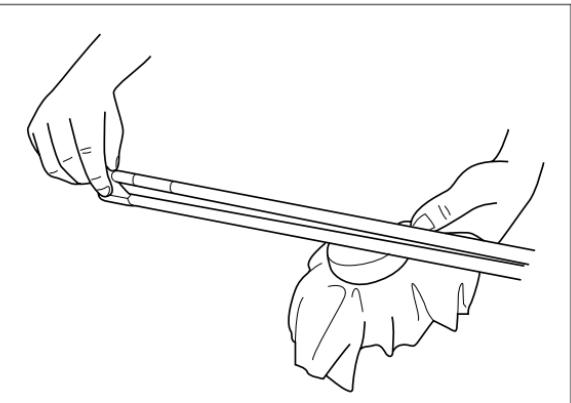
第4弦だけを、開放音(音階ボタンをなにも押さない状態)で静かに弾いてみて、弦と弓毛が確実に摩擦しているか、手の感覚で確認してください。

◆新しい弓の時

新品の弓や、毛を張替えたばかりの弓には、松脂が付いていないのが一般的です。

新しい弓毛は、ツルツルすべて松脂がつきにくい場合が多いので、根気よく馴染ませ、全体に摩擦を感じるまで付けてください。

※ 一度松脂が馴染んでしまえば、普段はあまりたくさんつける必要はありません。



● 演奏の前に...(4)弓の持ち方

弓は、手の中にタマゴをそっと握るときのように、指の全体を丸い形にして持ちます(右図参照)。

手首をリラックスさせ、自由な動きができるようにします。

● 演奏時の姿勢

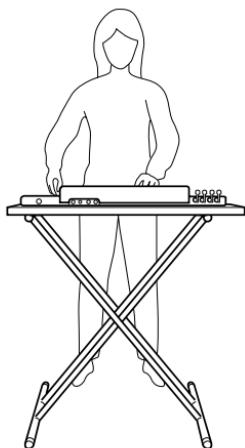
- ・立奏・座奏とも、弓を弦にのせたときに肩が上がったり、極端に前かがみになったりしない、自然な楽器の高さを設定しましょう。
- ・楽器と身体の角度は平行にします。弓と弦は直角に、弓と腕の線が一直線になるように立ちます。
- ・楽器と身体の距離は、ピック奏の時よりも遠めにした方が、運指や弓使いがスムーズにできます。

弓奏に適した高さを設定するために、下図の**演奏スタンド(別売品)**をお使いになると便利です。

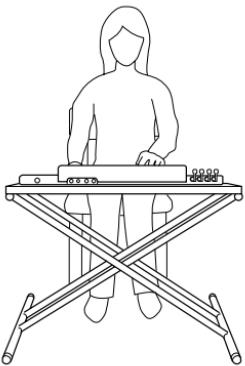
・品番：SHS-1

- ・高低可変式(弓座奏～ピック立奏まで12段階の高さを想定)
- ・床面とのガタツキを調整するストッパー付き
- ・譜面台付き

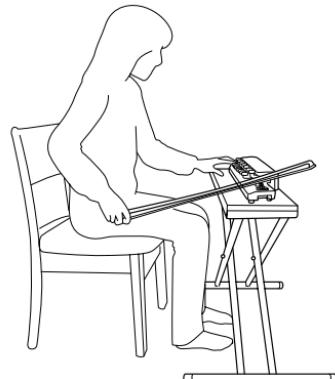
立って演奏する場合



座って演奏する場合



座って演奏する場合



● 弓奏(ボーアング)のポイント

弓奏の音色や音量は、次の3つの要素で決まります。

- A：弓を動かす速さ(速いと大きい音 ⇄ 遅いと小さい音)
- B：弦にかける圧力(大きいと強い音 ⇄ 小さいと弱い音)
- C：駒との距離(遠いと太く大きい音 ⇄ 近いと細く小さい音)

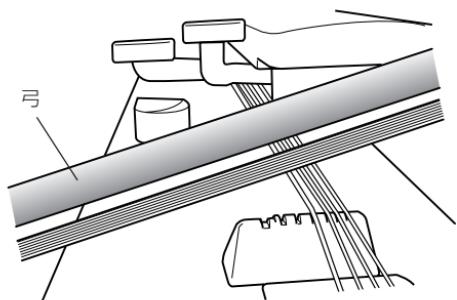
※ 弦にかける圧力は、音程にも影響します。

ヴィオリラの基本的な音程は本体のフレットで決める仕組みなので、バイオリンなどと違い左手でできる音程調整の幅が限られています。したがって、弦圧は一定に(弓の重さだけで弾くような感覚)にして、強弱の変化は弓の速さで表現するようしましょう。

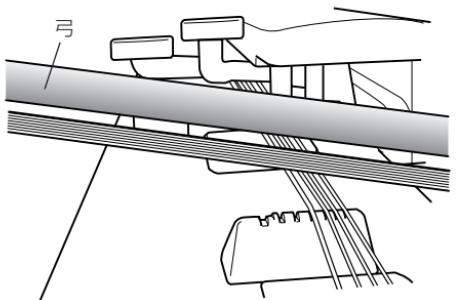
さまざまな奏法を覚えて、幅広い表現をしましょう。

- 右図のように弓を斜めにして4弦または1弦だけを弾きます。(分弦奏：1本の弦だけを弾く奏法です。)
- 曲想に応じて弓を平らにして、重音で弾くことも効果的です。
- 弓を前後に小刻みに震わせて弾く、トレモロ奏法も効果的です。

弓を斜めにして、4弦だけを弾いてみましょう。



弓を斜めにして、1弦だけを弾いてみましょう。



● 左手(運指)のポイント

音階ボタンはしっかりと強めに押さえましょう。

正確な音程と響きを得るためにには、弦がフレットにきちんと触れている必要があります。

弓奏は持続音なので、音の立ち上がりから終わりまで、音階ボタンを押す力の変化がすべて音程に表れます。

※ 弦がフレットに触れていない状態の時は、音程が低めで“ヒュルヒュル”といったあいまいな音しかしません。弓を動かしながら音階ボタンをゆっくり押し込んでいくと、弦とフレットが触れて、ハッキリと響きが変わる瞬間がわかります。

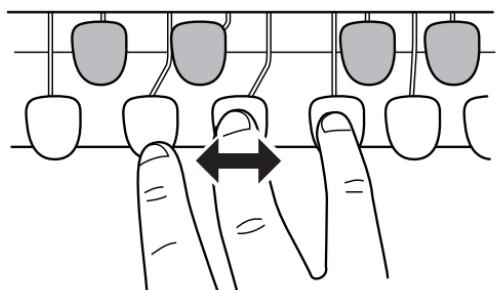
ビブラートをマスターしましょう。

音階ボタンを左右にゆらすと、心地よいビブラートをかけることができます。

最初、慣れない時は右手の弓もつられて動いてしまいますが、少し続けているうちにコツがつかめます。

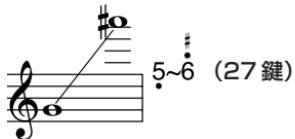
※ 楽器がないときにも、机の上で「左手の指を左右にゆらしながら、右手の指で前後に直線を引く」練習をすると、早くコツがつかめます。

音階ボタンを左右にゆらして、
ビブラートをかけてみましょう。



ヤマハ ヴィオリラ SH-30NW/SH-30NR 仕様

音域



左図は第1~3弦の音域です。
第4弦は1オクターブ低くなります。

弦

第1弦…細線 第2弦…細線 第3弦…細線 第4弦…細巻線

機能

・ボリュームコントロール ・トーンコントロール ・リバーブ(2タイプ)
・入力端子(AUX IN) ・ヘッドフォン/外部入力端子(HP/LINE OUT)

胴材質

松(スプルース)

天板材質

マホガニー

天板塗装色

SH-30NW:ナチュラルウッド SH-30NR:ナチュラルレッド

電源

9V乾電池(S-006P:6F22) または 電源アダプター:AC100V, 50/60Hz

付属品

ハードケース、電源アダプター(PA-1E)、ヘッドフォン、弓、松脂、調子笛、
ピック(ソフト1枚、ミディアム1枚)、予備弦(細線/細巻線/太巻線…各1本)、
ホーンコード、9V乾電池(S-006P:6F22)

* 仕様および外観は改良のため予告なく変更する場合があります。

ヴィオリラの音階

